

財光寺小学校「よのなか教室」 平成28年7月12日（火）

講師 江原 知子さん【株式会社タ刊デイリー新聞社日向支社 記者】

第6学年国語科学習指導計画

平成28年7月12日

指導者 森崎 陽介

1 単元名 新聞の投書を読み比べよう

2 目標

- 投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度）
- 投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。（読むこと）
- 書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのかを読み取り、自分の考えを明確にしている。（読むこと）
- 四つの投書を読み比べて考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。（読むこと）
- 自分の考えが伝わるように、構成を工夫し、理由を明確にして投書を書いている。（書くこと）
- 事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書いている。（書くこと）
- 投書の文章の構成を目的とともに理解している。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）
- 読み手に伝えることにこだわることの大切さに気づき、学校生活で生かすことができる。（つながる力）（創る力）

3 講師 江原 知子さん（株式会社タ刊デイリー日向支社 記者）

4 教育活動間の関連（⇒活動の流れ・----- 活動間の関連）

《教科》

《キャリア教育》

【5年】

【朝の会】

- 教師による新聞記事の紹介
- 児童による興味のある新聞記事の紹介

【国語】

書き手の意図を考えながら新聞を読もう
「新聞の記事を読み比べよう」

【国語】

「資料を生かして考えたことを書こう」

【教科学習】

- 学習に取り組む姿勢
- 【学級活動】
- 話し合い活動
- 学校行事

【6年】

【朝の会】

- 生活の中で新聞の投書を紹介し、考えを交流する。

【国語】

新聞の投書を読んで意見を書こう
「新聞の投書を読み比べよう」

夢や希望を抱き、常に学び続ける児童の育成
～かっこいい日向の大人に学ぶ活動を通して～

5 指導計画（全8時間）

主な学習内容及び学習活動	時間	評価計画 ・国語科 ☆キャリア教育	外部人材活用の方法
1 学習の見通しを立てる。 ・ 投書について知る。 ・ 投書から見つけた書き方の工夫をもとに、投書を書くという学習の見通しを立てる。	1 時間	・ 投書について関心をもち、説得力のある文章を読み取り、投書を書くことを見通し、意欲をもって取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)	
2 4つの投書を読み比べる。 ・ 書き手の主張 ・ 書き手の理由づけの仕方や事実や根拠の挙げ方の工夫	2 時間	・ それぞれの書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえている。 (読むこと) ・ 構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得力のある文章をとらえている。 (読むこと)	
3 4つの投書の中から、自分が納得するものを選んで理由をまとめ、友だちを伝え合う。	1 時間	・ 4つの投書を読み比べて考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(読むこと) ・ 投書の文章の構成を目的とともに理解している。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	
4 投書を書く。 ・ 投書の構成を考える。 ・ 六百字程度で投書を書く。	2 時間	・ 読み手の自分の考えが伝わるように、構成を工夫し、理由を明確にして投書を書いている。(書くこと) ・ 事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書いている。 (書くこと)	
5 書いた投書を見直す。	1 時間 本時	・ 外部人材の助言や友だちとの読み合いの中でをもとに、自分の投書を付加・修正することができる。 (書くこと) ☆ 読み手に伝えることにこだわる ことのかっこよさに気付き、学校生活で生かすことができる。 (創る力)(つながる力)	○ 児童が書いた投書について、専門的な立場から、分かりやすく伝えるための助言をいただく。 ○ 外部人材の仕事への向き合い方やこだわりを話していただく。
6 学習を振り返る。 ・ お互いの投書を読み合う。 	1 時間	・ これまで学習してきたことをもとに友だちの作品の良さを発表することができる。(読むこと)	

6 本時の目標

- 読み手に説得力のある投書になっているか、外部人材からの助言や友だちと読み合いの中で確認し、付加・修正することができる。(書くこと)
- 自分の仕事にこだわりをもって仕事に取り組むことのかっこよさに気付くことができる。(キャリア教育)

7 学習指導過程

段階 (時間)	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 ☆ キャリア教育		評価【評価方法】 ・ 国語科 ☆ キャリア教育	資料 準備
		指導者	外部人材		
導入	1 学習に見通しをもつ。 ○ 前時を振り返り、本時の流れを確認する。	○ 外部人材の紹介をする ○ 単元学習計画をもとに前時の内容と本時の流れを確認させる。	○ 簡単に自己紹介する。		単元 学習 計画
	2 本時のめあてをつかむ。 自分の作品を見直そう。				
展開	3 友だちの作品を読み取る 観点を確認する。 ・ 話題提示 ・ 書き手の意見 ・ 理由や根拠 ・ 反論	・ 観点は板書で提示する。			書 画 カ メ ラ プ ロ ジ ェ ク タ ー
	4 友だちの作品の良さを伝え合う。(ペア→全体)	・ 読み取る観点をもとに友だちの作品を読む。	○ 児童の発表の後に、児童の気づきを認めてもらう。		
	5 江原さんに作品の良さや修正点を教えてもらう。 ・ 相手意識をもって ・ 具体的に ・ 理由や根拠の用い方		○ 事前に見ていただいた作品の中から選んで紹介してもらう。	☆ 読み手に伝えることにこだわるのかっこよさに気づき、学校生活で生かすことができる。 (創る力・つながる力) 【発言】 【ワークシート】 ・ 外部人材の助言や友だちとの読み合いの中でをもとに、自分の投書を付加・修正することができる。 【観察】【作品】	
					
	6 自分の作品を付加・修正する。	○ 学習したことを参考にする。	○ 児童の質問にこたえてもらう。		
7					
	7 仕事内容や仕事への向き合い方について聞く。	○ 聞いてみたいことを質問するように呼びかける。	○ 仕事への向き合い方やこだわりについて話してもらう。		

終末	8 本時の学習を振り返る。	○ 今日の学習の感想を発表させる。	○ 児童の感想を聞いて感じたことを話してもらおう。	
----	---------------	-------------------	---------------------------	---

8 板書計画

● ● ● ●

国語辞典の活用
自分の経験や知識を大切に
反対意見も認めた上での反論
読み手への投げかけ

③ ② ①

反論に対する意見を書いている。
理由や根拠が明確になっている。
意見や主張がはっきりしている。

《書き方のポイント》

自分の作品を見直そう

新聞の投書を読み比べよう

文月十二日

スクリーン

9 児童の感想

タ刊デیلیー 江原さんのお話を聞いた感想

6年

江原さんのお話を聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。

江原さんのお話を聞いて、記事を書いたり、取材したりするのは、大変そうだなと思いました。理由は、中学生でも分かるような記事を書くことや、午後2時から印刷することや、土・日も仕事することなどをお聞きして、そう思いました。でも、そのお仕事は10年もやっているとおっしゃっていて、すごいなと思いました。江原さんが、聞く力が大切とおっしゃっているのを聞いて、今まで来てくださった方たちの話でも、何度も出ていたので、私も、もとよく人の話を聞くことをがんばろうと思いました。江原さんが私の投書にアドバイスしてくださって、这么好的投書になったと思います。ありがとうございます。本を読むことも大切とおっしゃっていて、私は、小説を読んで空想の世界に入るのが好きです。小説のさし絵を見たりして登場人物の気持ちを考えるのが好きだから、本をこれからたくさん読もうと思いました。今日は、ありがとうございました。

タ刊デیلیー 江原さんのお話を聞いた感想

6年

江原さんのお話を聞いて、思ったこと、感じたことやこれからがんばりたいことをくわしく書こう。

今回の授業は、江原さんからプロの目でみんなの投書の中から、書くポイントを色々教えてもらい、投書を書く時の参考にしていきたいと思います。特に、「反対意見もみとめる」や「読者に呼びかけるように」を参考にしていきたいです。また、江原さんが記事を書く時に「相手の気持ちを考えるのが大切」と聞いて、少しでも書き方をまちがえたら、相手はきづつくので、責任をしっかりと持たないといけないことも分かりました。他にも、プロ用のカメラをさわったりできて良かったです。今後、今回の学習をいかして、投書してみたいなと思いました。そのためにも、まずは新聞を読んでいたいです。

10 児童の作品（下書き→清書）

が	の	こ	は	れ	達	っ	め	つ	す	調	だ	と	た	勝	と	と	ッ	本	で	リ	そ	す				
	で	と	限	る	勝	は	た	ス	思	に	こ	べ	と	そ	が	の	ち	が	運	国	れ	ッ	わ	の	る	わ
私	は	を	界	が	負	そ	ら	ポ	は	と	る	思	し	重	け	ス	な	ボ	り	技	典	は	し	り	と	し
た	な	夢	さ	も	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に	に
ち	い	見	こ	し	勝	ま	限	ッ	す	カ	と	ま	勝	な	ス	な	ボ	り	技	典	は	し	り	と	し	に
を	で	て	え	れ	つ	で	界	が	の	記	っ	す	つ	の	ポ	と	し	た	で	は	は	は	は	は	は	は
も	し	苦	ら	な	に	喜	を	衆	限	さ	目	た	の	は	ツ	あ	な	ま	と	ス	で	は	は	は	は	は
り	う	く	る	と	本	の	喜	こ	し	り	い	的	そ	め	は	ツ	あ	な	ま	と	ス	で	は	は	は	は
け	か	と	い	の	試	な	え	め	き	さ	に	こ	に	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は
て	き	信	う	選	合	は	ア	レ	つ	れ	向	で	は	な	勝	そ	な	ま	と	ス	で	は	は	は	は	は
く	そ	つ	じ	恐	手	さ	し	勝	は	く	て	か	国	い	ち	う	と	た	い	ッ	う	し	意	た	さ	ん
れ	う	い	て	怖	た	見	な	利	良	さ	い	語	努	で	負	こ	で	う	と	が	見	。さん	の	読	の	こ
る	い	力	勝	こ	は	勝	で	勝	た	け	す	カ	典	す	や	と	き	技	ト	ベ	こ	成	で	限	界	を
の	た	を	利	え	う	と	の	は	な	限	こ	か	き	書	そ	だ	て	こ	み	に	す	た	ま	で	ポ	ー
す	選	し	て	体	に	と	の	は	な	限	こ	か	き	書	そ	だ	て	こ	み	に	す	た	ま	で	ポ	ー
手	ア	つ	が	勝	う	と	の	は	な	限	こ	か	き	書	そ	だ	て	こ	み	に	す	た	ま	で	ポ	ー
た	い	か	自	こ	つ	た	の	ら	で	き	カ	が	い	て	合	調	い	る	意	味	ス	が	努	力	に	カ
ち	る	む	分	わ	手	あ	い	勝	く	き	切	う	と	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ

新聞の投書を読み比べよう

六年

反対意見を認める・自分の経験や知識を大切にして書く・国語辞典の意味を調べ・読んだ感想を伝える

わ	で	と	限	る	さ	た	。と	つ	す	調	だ	こ	た	り	み	と	ッ	あ	ー	そ	す						
た	は	を	界	が	望	ハ	ち	た	ス	思	に	こ	べ	と	そ	の	る	ガ	運	国	る	ッ	わ	の	る	わ	
し	な	夢	さ	も	人	し	は	ら	ポ	は	と	る	思	し	か	で	勝	と	分	動	語	の	ど	た	通	こ	た
たい	見	こ	し	で	一	そ	一	ま	一	と	い	て	重	ち	が	競	辞	典	は	は	は	は	は	は	は	は	
ち	で	て	え	れ	い	ホ	こ	限	ッ	す	カ	と	ま	勝	な	ボ	け	ス	ま	を	で	な	す	大	と	価	き
を	し	苦	ら	な	る	一	ま	界	が	の	記	っ	す	つ	な	ボ	し	ま	っ	い	ハ	木	思	値	大	こ	え
も	う	し	れ	い	日	ル	で	き	衆	限	さ	目	た	の	は	ツ	あ	た	と	ス	で	て	さ	い	が	洋	
り	う	く	る	と	本	の	喜	こ	し	り	い	的	そ	め	は	ツ	あ	な	ま	と	ス	で	は	は	は	は	
上	か	と	い	の	試	な	え	め	き	さ	に	こ	に	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	
は	き	信	う	選	合	は	ア	レ	つ	れ	向	で	は	な	勝	そ	な	ま	と	ス	で	は	は	は	は	は	
て	そ	つ	じ	恐	手	さ	し	勝	は	く	て	か	国	い	ち	う	と	た	い	ッ	う	し	意	た	さ	ん	
く	う	い	て	怖	た	見	な	利	良	さ	い	語	努	で	負	こ	で	う	と	が	見	。さん	の	読	の	こ	
れ	い	力	勝	こ	は	勝	で	勝	た	け	す	カ	典	す	や	と	き	技	ト	ベ	こ	成	で	限	界	を	
る	の	た	を	利	え	負	し	ち	け	れ	の	で	る	う	と	き	技	ト	ベ	こ	成	で	限	界	を	き	
の	た	を	利	え	負	し	ち	け	れ	の	で	る	う	と	き	技	ト	ベ	こ	成	で	限	界	を	き	き	
で	選	し	て	体	に	と	の	は	な	限	こ	か	き	書	そ	だ	て	こ	み	に	す	た	ま	で	ポ	ー	
す	手	ア	つ	が	勝	う	と	の	は	な	限	こ	か	き	書	そ	だ	て	こ	み	に	す	た	ま	で	ポ	ー
た	い	か	自	こ	つ	た	の	ら	で	き	カ	が	い	て	合	調	い	る	意	味	ス	が	努	力	に	カ	
ち	る	む	分	わ	手	あ	い	勝	く	き	切	う	と	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	

新聞の投書を読み比べよう

六年

反対意見を認める・自分の経験や知識を大切にして書く・国語辞典の意味を調べ・読んだ感想を伝える

11 授業者の感想

教科書を用いて押さえた書き方のポイントをふまえ児童は下書きを書いたが、国語辞典の活用の効果や自分の経験や知識を大切にして書くと文章の説得力が増すことなど、江原さんから子どもたち下書きをもとにしたアドバイスをいただいたことで、児童のスキル向上はもちろん学習意欲の向上にも繋げることができた。また、新聞記者としての経験を聞いて、話を聞くことや相手の気持ちを考えることなど、児童の教科外での気付きも感じられた。